

ベトナム バナナとパッションフルーツの輸出額が10億ドルに

[FreshPlaza 2025年7月21日](#)

ベトナムからのバナナとパッションフルーツの輸出が勢いを増しており、適切な投資と計画があれば、今年は10億ドルの台に達する可能性がある。

2024年のバナナの栽培面積は16万1千ヘクタール、輸出額は約3億8千万ドルで、ベトナムは世界第9位のバナナ輸出国となっている。米国、EU、中国、韓国、日本等の要求の厳しい市場に参入しているにもかかわらず、1ヘクタール当たりの平均収入は約2,400ドルと依然として低い。VNExpress紙が確認したところでは、ユニファーム等の企業はハイテクモデルを推進し、生産段階全体で基準を統一し、収入を1ヘクタールあたり2万ドルに押し上げ、長期的にはこの業界を40億ドル規模に向けて拡大することを目指している。

パッションフルーツは、以前はベトナムの農産物輸出にほとんど含まれていなかったが、現在では主要な品目として台頭しており、加工品は年間約3億ドルを生み出している。米国、韓国、タイ等の市場への参入交渉が進行中であり、この業界の可能性は明らかである。しかし、産地の断片化、種子の品質の低さ、農薬の過剰使用等の課題が依然として残っている。これらを克服するための提案としては、地域区分の見直し、農薬管理の厳格化、小規模生産者の組織化の改善等が挙げられる。

パイナップルとココナッツの輸出は有望だが、土地利用、技術、法令順守がボトルネックになっている。農薬使用の不適切な管理、表示ラベルの誤り、認証後の失効により、中国からは警告や輸出コードの取り消しの措置を受けている。

出典: VNExpress

フィリピン 世界のバナナ輸出で第3位を維持

[FreshPlaza 2025年7月22日](#)

国連食糧農業機関(FAO)の報告によると、フィリピンは、南米諸国との競争が激化する中、世界第3位のバナナ輸出国としての地位をかくろうじて維持した。FAOの2024年世界マーケットレビューでは、フィリピンの輸出量は230万トンで、グアテマラの220万トンをわずか10万トン上回っていることが注目される。コロンビアの輸出量はグアテマラと同程度であり、輸出国間の競争が激化していることを示している。

フィリピンは、2023年にグアテマラに抜かれて3位に後退したが、パナマ病等の病虫害問題や南シナ海の地政学的緊張等が輸出に影響を与えており、引き続き課題に直面している。これらの要因により、昨年の同国のバナナ輸出は1%減少した。

FAOのデータによると、エクアドルは約600万トンで最大のバナナ輸出国としての地位を維持し、コスタリカは約240万トンで現在第2位の座を占めている。南米諸国及び近隣のアジアの輸出国との競争の激化により市場への圧力がさらに強まる中、フィリピンはアジア市場でのシェアが低下している。フィリピンは中国市場において20年にわたり最大のバナナ供給国であったが、近年その地位をベトナムに奪われたことは注目に値する。

こうした力関係の中、フィリピン国内ではバナナ産業を再び活性化し、国際市場でのシェアを回復するための立法措置に関する議論が続いている。

出典: PhilStar Global